

【き】 急傾斜地は自然と人工の両方があり、不安定な方向に変化している？

周りを注意してみると、急傾斜地崩壊危険指定区域という看板を目にすることがあります。ある一定の基準を満たしたものが指定されていますが、対策工事がなされているものも結構あります。斜面の末端（裾）に擁壁があったり、ネットがかかっていたり、法枠で覆われていたりしています。裾部には家屋が並んでいて、崖の上に住宅があることもあります。対策がされているといっても年数が経過していて、すべてが万全ということではありませんので、よく観察して変化の有無を確認することも必要です。特に大地震の後や豪雨の後などに湧水、亀裂、ハラミなどの有無を確認することは大切です。

【ゆ】 揺れやすさマップをみて、読む

地震の揺れは地震の大きさや地盤の性質に主に支配されていますが、それに経験も加味して、ハザードマップでは50m四方のメッシュで表示されています。大まかには山地や台地は揺れが大きくなく、平野部の低地では揺れが大きいとはなるのですが、実際にはそう単純ではありません。都市部では丘陵地が開発されて、盛土造成などで人工改変されていますので、旧地形も関係することになります。当然、その上にある構造物の構造や形状にも関係しています。ハザードマップを確認する上で、特に高さの異なる境界部は揺れ方が複雑になりますので、注意しておくといえます。

【め】 目を向けることで、目を配ることになる

自分の暮らしている地域でなくても、わが国では様々な自然災害が起きています。これをよそごとにしないで、自分たちのところで起きたらどうなるのかを考えてみるのが大切です。様々な情報の中から、気づくこともあるし、見直すこともあります。災害は規模やその時の状況によってさまざまなものがあります。被害についての一つの公式はありませんので、様々な事例に接して関心を持っておくことは、実際に発生した時、或いはアドバイスをする時に役に立ちます。何かあれば、その時に皆で協力して対応すればよいと考えていても、ほとんどその場で適切な行動はできない、ということを経験した人は語っています。自然災害は、日常の中で遭遇するものと異なって、そう簡単な相手ではないことを知っておきたいものです。